

平成 23 年 6 月 6 日現在

機関番号：35302

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20720213

研究課題名（和文） 西南中国及び東南アジア大陸部における伝統的土器製作の比較研究

研究課題名（英文） Comparative study of traditional earthenware making in Southwest China and Mainland of Southeast Asia.

研究代表者

徳澤 啓一（TOKUSAWA KEIICHI）

岡山理科大学・総合情報学部・准教授

研究者番号：90388918

研究成果の概要（和文）：中国雲南省を中心とする西南中国及び東南アジア大陸部において、3年間にわたる伝統的土器製作に関する現地調査にもとづいて、それぞれの村寨における製作技術及び生産等を精査した。その結果、当該地域における伝統的土器製作の多様性と地域性を明らかにすることができた。とくに、タイ・ラオス・カンボジア・ベトナムに展開する「円筒形原型変形成形」について、「タイ東北部」・「ラオス中部及び南部」・「カンボジア南部及びベトナム南部」という少なくとも3つの地域差のあることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In Southwestern China(mainly in Yunnan Province) and the mainland of Southeast Asia, the distribution of the traditional earthenware making village was clarified in detail by field survey for 3 years. Based on these surveys, I studied in making technique and productive style of each village, especilly focused on forming process of making water jar.

As s result of these surveys, I could clear diversity and regionality of technical contents, mainly in forming process. Moreover, I could make some features clear such as regionality of forming technique as we call “sylinder forming” spread on Thai – Laos – Cambodia – Vietnam, and could devide three regions at least by regionality as Northeast Thailand, Central and South Laos and Southern Cambodia and Southern Vietnam.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2008年度 | 1,500,000 | 450,000 | 1,950,000 |
| 2009年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 2010年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,300,000 | 990,000 | 4,290,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：物質文化学

1. 研究開始当初の背景

西南中国及び東南アジア大陸部（以下「当

該地域」と表記する）では、多様な伝統的土器製作（以下「土器製作」と略記する）に関

する民族誌が残されている (Cort and Lefferts 2003)。

これらの製作技術及び生産様式 (原材料調達・素地製作・成形・焼成・販売等) に関する民族誌の生態を参照することは、当該地域における物質文化研究及び考古学的土器研究に有益であるとともに、我が国の土器研究 (縄文土器・弥生土器・土師器等) にもきわめて有効であり、これらの発展に大きく寄与した研究史的経緯がある (小林 2003 ほか)。

しかしながら、これまで援用された民族誌は、中国雲南省 (周 1979 ほか)、台湾 (鳥居 1902 ほか)、タイ (高田 1975 ほか) 等で占められており、地域的及び技術的な偏りが著しいことに留意する必要がある。これらの地域に共通する「粘土紐積み上げ (巻き上げ) による匣鉢形原型→タタキ成形」技術によって、当該地域全体の土器製作のイメージが一般化されている嫌いがある。

報告者は、平成 20~22 年度科研を獲得できたことで、当該地域における土器製作の現地調査を加速させることができた。その結果、中国雲南省、タイに加えて、かつて、紛争等で現地調査が困難であったベトナム、ラオス、カンボジア等において、上記の成形技術と異なる多様な土器製作を多数見出すことができた。その結果、当該地域全域にわたる土器製作を網羅的に俯瞰し、その多様性を強調することが不可欠であると考えられるようになった。

2. 研究の目的

本研究では、西南中国及び東南アジア大陸部における伝統的土器製作に関する民族誌を俯瞰することで、その多様性を明らかにすることを第 1 の目的とした。次に、それぞれの民族誌における原材料調達・素地製作・成形・焼成・販売等に関する製作技術及び生産様式を整理することで、当該地域における土器製作の系譜を整理した。そして、考古学分野における土器研究 (例えば、土器型式及び組成とその変遷、製作技術論等) にとって、有用な民族誌的生態を抽出し、新しい分析の視点、解釈の枠組み等を提示することも目的とした。また、当該地域では、著しい経済発展に伴って、土器製作が急速に衰退・消滅に向かっている。現地調査で取得した写真及び映像を用いて、詳細なモノグラフを作製し、後世のための記録保存を実施し、実物とあわせて可能な限りの収集を目指した。

3. 研究の方法

平成 20~22 年度科研では、3 カ年を費やして、5 カ国 35 カ村における土器製作に関するフィールドワークを実施した。詳細は、下記のとおりである。

2008 年 12 月-2009 年 1 月

タイ東北部ホムロンチャタニ、ラオス南部サウアン

2009 年 2-3 月、

ベトナム中部ビンソクワン、南部アンザン・キエンザン

2009 年 3 月、

中国雲南省玉溪市

2009 年 11 月、

カンボジア南部カンボート・タオ

2009 年 12 月-2010 年 1 月、

ラオス中部サウナケート、南部チャンパサック

2010 年 3 月、

タイ南部サトゥン・ソクラー・ナコンシータマラート

2011 年 1 月、

ラオス北部ルアンパバーン、南部アックプー

2011 年 2 月、

タイ北部スコタイ・ランパン・ナン・チェンライ・チェンマイ

2011 年 3 月、

タイ東北部ナンカイ、ルイ、ノンブアランプー

ただし、研究の当初計画において、ミャンマーにおける現地調査を盛り込んだものの、平成 20 年度、サイクロンによる被害が発生し、平成 22 年度、民主化総選挙による政情不安によって、現地調査の機会を逸してしまったことを付記しておく必要がある。

現地調査では、参与観察及びインタビューを中心として、村寨の歴史、住民の詳細とともに、製作技術及び生産様式に関する具体的内容を取りまとめた。また、デジタルスチルカメラ及びビデオを活用し、将来の土器製作の消失に備えて、参照可能なモノグラフを記録保存することで、あわせて研究基盤の保全を図る方法を採用した。

4. 研究成果

当該地域における土器製作を俯瞰し、その多様性を明らかにすることができた。また、土器製作の背後にある歴史性・民族性・社会性を下敷きとした地域性を顕在化させることができた。とくに、リーダム・レファート及びルイスコートらによってカテゴライズされた **Type-A** (円筒形原型変形成形) に関して、これまでタイ・ラオス・カンボジア・ベトナムにわたる広範な地域において、差異一的な土器製作の伝統的様式が展開するとされてきた。しかしながら、平成 20~22 年度科研におけるインドシアン半島を縦走する広域調査によって、「タイ東北部」・「ラオス中部及び南部」・「カンボジア南部及びベトナム南部」という少なくとも 3 つの地域差が顕在することを明らかにすることができた。また、当該地域では、この十数年以内において「経済発展→生活様式の現代化→土器製作の衰亡」という事態が予見される。製作者は、**QOL (Quality of Life)** の向上のため、生活や生業に関する伝統的様式から脱却し、収入を増大させる効率的手段を獲得しようとしている。一部の若い世代の製作者は、土練機、

電動轆轤、窯等を導入し、現代的土器製作に移行しているが、ほとんどの製作者は、これらへ適応が難しく、高齢化に伴って廃業しつつある。後継者となるはずの次世代は、現代的な生活に対する憧憬を募らせ、出稼ぎ等で都会へ流出し、土器製作の継承を拒絶している。そのため、平成 20～22 年度科研では、現地調査に際して、**可能な限り土器製作に関する記録と実物一式を取得した。本研究を通じて、土器製作を記録保存し、実物を取得するという取り組みは、研究基盤の保全に繋がり、その意義はきわめて大きかったと**考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

- ① 徳澤啓一・平野裕子 2010 「カンボジア南部におけるクメール族の伝統的土器製作 - ダムナック・チョムボック村における Chhnang の成形を中心として -」『カンボジアの文化復興(26) - アンコール遺跡および伝統文化復興の研究・調査』上智大学アジア人材養成研究センター, pp.37-61 査読無
- ② 徳澤啓一・小林正史・北野博司・三阪一徳 2010 「ラオス中南部における伝統的土器製作と世代間比較 - ラオス人民民主共和国サワンナケート県ブッドン村の伝統的水甕製作を中心として -」『岡山理科大学紀要』第 46 号 B 岡山理科大学, pp.1-20 査読無
- ③ 徳澤啓一・平野裕子・Nguyễn Thị Hoài Hương 2009 「ベトナム南部におけるクメール族とキン族の土器製作 - キエンザン省における製作技術及び生産様式の変容を中心として -」『カンボジアの文化復興(25) - アンコール遺跡および伝統文化復興の研究・調査』上智大学アジア人材養成研究センター, pp.55-85 査読無
- ④ 徳澤啓一・小林正史 2009 「東北タイにおける伝統的土器製作と小学校の教育実践 - タイ王国ウボンラチャタニ県ドンジック村の伝統的水甕製作を中心として -」『岡山理科大学紀要』第 45 号 B 岡山理科大学, pp.1-20 査読無
- ⑤ 徳澤啓一・平野裕子・Đỗ Kiên 2009 「ベトナム中部におけるチャム族の伝統的土器製作 - 東南アジア大陸部の伸ばし成形の比較を通じて -」『東南アジア考古学』29 号, 東南アジア考古学会, pp.37-60 査読有
- ⑥ Keiichi TOKUSAWA, HIRANO Yuko and Đỗ Kiên 2009 The study of the traditional making technique of earthenware in the central Vietnam: mainly the forming and firing in Palei Ligok village, Binh Thuan province.” Renaissance Culturelle Du Cambodge 24, Sophia Asia Center for Research and Human Development, Institute of Asian Studies, Sophia University Publishers. 査読無
- ⑦ 徳澤啓一・小林正史 2008 「北タイにおける伝統的土器製作と OTOP～タイ王国チェンマイ県ハンドン郡ハンケオ地区の伝統的水甕製作を中心として～」『岡山理科大学紀要』第 44 号 B 岡山理科大学, pp.13-32 査読無
- ⑧ Keiichi TOKUSAWA, Yuko HIRANO and Đỗ Kiên 2008 The Study of the traditional making technique of earthenware in the central Vietnam: mainly the forming and firing in Palei Ligok Village, Binh Thuan province. Papers of the third International Conference on Vietnamese Studies (Panel 3: Vietnamese Culture) at Hanoi, Vietnam National University Publishers, 5-12 査読有
- ⑨ Keiichi TOKUSAWA, Yuko HIRANO and Đỗ Kiên 2008 Nghiên Cứu Kỹ Thuật Làm Gốm Đất Nung Truyền Thống ở Miền Trung Việt Nam: Kỹ Thuật Tạo Hình và Các Công Đoạn Nung Đốt Sản Phẩm ở Làng Gốm Palei Ligok, Bình Thuận. Papers of the third International Conference on Vietnamese Studies (Panel 3: Vietnamese Culture) at Hanoi, Vietnam, Vietnam National University Publishers, 1-4. 査読有
- ⑩ Keiichi TOKUSAWA, HIRANO Yuko and DO Kien 2008 Preliminary report of the study on the traditional pottery making technique in Binh Duc village, Binh Thuan province in the Central Vietnam, In Binh Thuan provincial Museum, Vietnam. 査読無
- ⑪ 徳澤啓一・平野裕子 2008 「ベトナム中部の伝統的土器製作と陶器生産～パレイ・リゴク村及びパレイ・チュロク村の事例を中心として～」『社会情報研究』第 6 号 岡山理科大学, pp.55-70 査読無
- ⑫ 徳澤啓一・平野裕子 2008 「北インドにおける生活様式と伝統的土器～ウッタラプラデーシュ州の農村部と都市部の土器利用を中心として～」『社会情報研究』第 6 号 岡山理科大学, pp. 71-78 査読無
- ⑬ 徳澤啓一 2008 「雲南邊疆における伝統的土器製作の地域差と季節差～孟海県と景洪市、乾季と雨季における生産様式と製作技術の比較を中心として」『岡山理科大

学埋蔵文化財研究論文集』 岡山理科大学
埋蔵文化財研究会, pp.53-99 査読無
〔学会発表〕(計7件)

- ① 徳澤啓一・中村大介 2011.5.29 「中国雲南省における彝族の伝統的土器製作 - 玉溪市元江哈尼族彝族自治县の事例を中心として -」日本考古学協会第77回総会(於: 國學院大學)
- ② 徳澤啓一 2011.1.22 「東南アジア大陸部における円筒形原型変形成形手法の地域差 - タイ・ラオス・カンボジア・ベトナムの比較を通じて -」『土器と窯業の民族考古学』ワークショップ(於: 関西大学)
- ③ 徳澤啓一・平野裕子 2010.5.24 「カンボジア南部におけるクメール族の伝統的土器製作～タケオ州及びカンポット州での存否確認調査の成果を中心として～」東南アジア考古学会(於: 昭和女子大学)
- ④ 庄田慎也・安部久・能城修一・徳澤啓一・小林正史 2009.7.11 「土器作り叩き板の考古民族植物学的研究」日本文化財科学会第26回大会(於名古屋大学)
- ⑤ 徳澤啓一・平野裕子・Do Kien 2009.5.31 「ベトナム中部における土器製作の伝統的技術様式～ビントゥアン省パレイ・リゴク村の成形・焼成を中心として～」日本考古学協会第75回総会(於早稲田大学)
- ⑥ Keiichi TOKUSAWA, Yuko HIRANO, Do Kien 2008.12.6 The Study of the traditional making technique of earthenware in the central Vietnam: mainly the forming and firing in Palei Ligok Village, Binh Thuan province”, Abstracts of the third International Conference on Vietnamese Studies at Hanoi, Vietnam, December 4th -7th, 83-84. (於ハノイ国家大学)
- ⑦ 平野裕子・徳澤啓一・Do Kien 2008.11.16 「ベトナム中部チャム族の伝統的土器製作～パレイ・リゴク村を中心に～」第58回上智大学史学会大会(於上智大学)

〔図書〕(計2件)

- ① 徳澤啓一 2010 『ラオス中南部の伝統的土器づくり』(岡山理科大学総合情報学部社会情報学科(仮称)歴史・民族・考古系資料室展示図録) 岡山理科大学総合情報学部社会情報学科(仮称)歴史・民族・考古系資料室
- ② 徳澤啓一 2009 『ベトナム中部の伝統的土器づくり』(岡山理科大学総合情報学部社会情報学科(仮称)歴史・民族・考古系資料室展示図録) 岡山理科大学総合情報学部社会情報学科(仮称)歴史・民族・考古系資料室

6. 研究組織

(1) 研究代表者

徳澤 啓一 (TOKUSAWA KEIICHI)

岡山理科大学・総合情報学部・准教授

研究者番号: 90388918